

# ■ カイゼン案のブラッシュアップについて

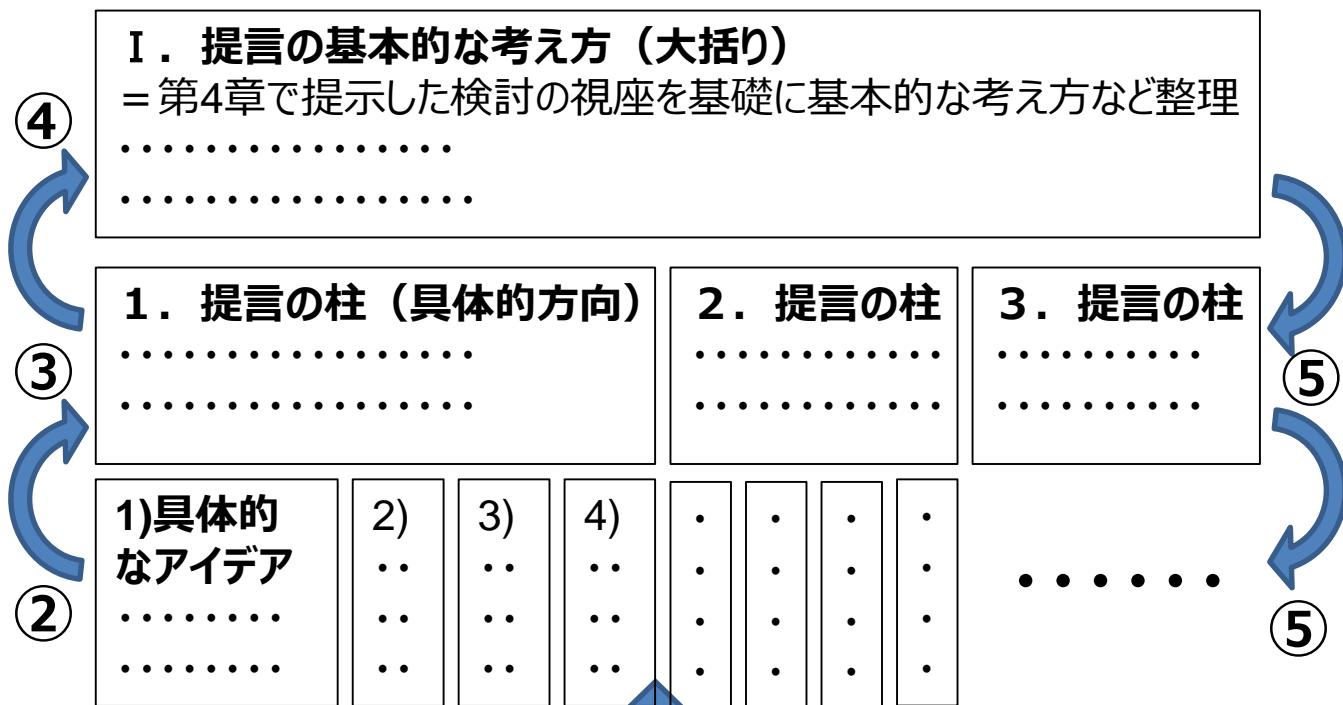
2023年5月31日

自然資本のマネジメントに関する研究会

# 【参考】カイゼン提案取りまとめプロセスのイメージ

自然資本のマネジメントに関する研究会「中間報告」第4章で提示されている「検討の視座」を基に、

- ①まずは、その視座を各分野での具体的な取組に反映するアイデアを頭出し、
  - ➡②出て来たアイデアをベンチマークにして横展開や、横断的な新たな括りのアイデアの検討、
  - ➡③①・②を包含する提案の柱建てを検討、➡④一連の検討を踏まえて提案の骨格を充実、➡
  - ⑤④を踏まえて、柱建てや個別のアイデアのブラッシュアップを実施。
- (➡このプロセスを通じ既存枠組みでは解消できないボトルネックを明確化、骨太論点の議論へ)



中間報告は、自然資本の要素横断的なまとめ方をしているため、具体性はこれからという状態。

最終報告では、プロセス重視の提案として基本的な理念・方向性を伝える部分と、実際に現場の役に立つ具体的な提言の部分をとともに備えている必要。

例えば、左図のように、基本的考え方を示す部分、具体的な方向性を示す部分、例示としての具体的なアイデアを並べる部分というような構成を想定して検討をすすめてはどうか。

**①** 検討の視座を踏まえて、各分野での具体的なカイゼンのアイデアをたたき台として提案。

# 今後のカイゼン提案の充実方向（案）

A：カイゼン提案のうち、一定の具体性のあるもの

- ▶ 他の分野で同様の趣旨のカイゼン提案がないか、各メンバー検討。
- ▶ カイゼン提案の方向性が、全体として整合しているか、複数分野の提案を対比しつつ検証。
- ▶ 個別のカイゼン提案を越えて、政策分野横断的なカイゼン提案がありえるか、検討。

B:カイゼン提案のうち、理念を中心に行っているもの

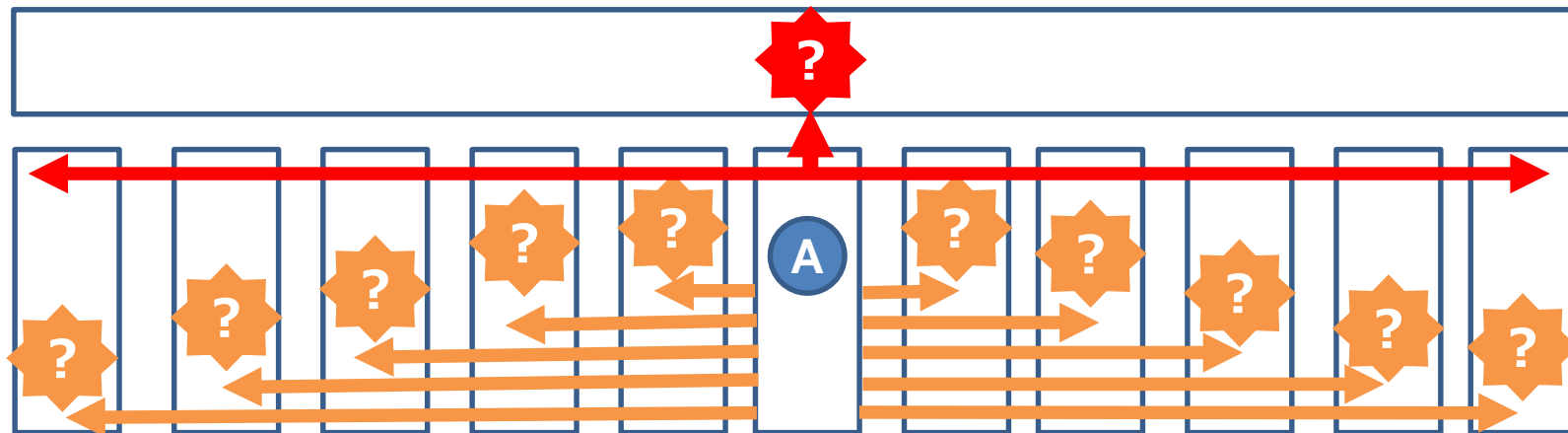
- ▶ その理念を具体化する取組が具体的な政策分野で存在する（し得る）か、各メンバー検討
- ▶ 発掘された個別のカイゼン提案を束ねて、そもそものカイゼン提案との整合性確認

C：新たな論点か、事実関係確認等が必要なもの

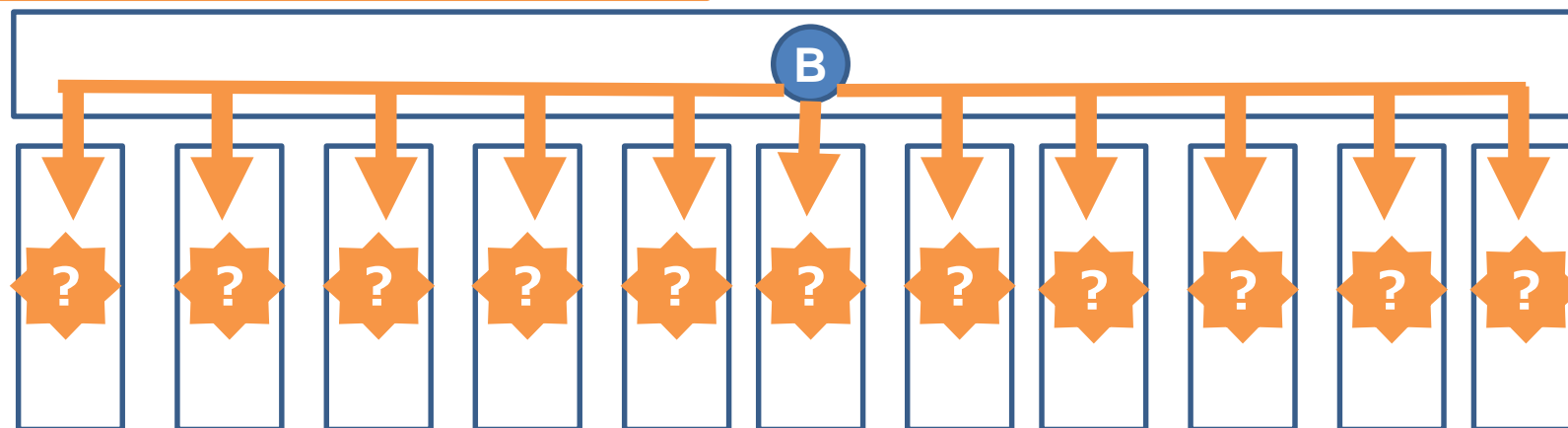
- ▶ 該当分野において類似の政策が存在するか、各メンバー検討。新規の場合、制度的に対応可能であるか、既存の政府方針と整合しているかなどを確認
- ▶ 確認を踏まえて、Aタイプ、Bタイプでの対応を検討

# 今後のカイゼン提案の充実方向（イメージ）

## Aパターンの充実方向



## Bパターンの充実方向



# 昨年度の事例調査からの着想について

昨年度実施の事例調査（国内・海外）から、カイゼン提案につながるものがないか、改めて見直していただけないか。（中には、骨太の論点につながるものも）

- 多様な主体の参画は、主に2．に対応（意思決定ステージは主に2－①、対策実践ステージは、主に2－②に対応。2－③は両ステージまたがり）
- デジタル化は、主に3．に対応。（意思決定ステージは主に3－①に対応、対策実践ステージは主に3－②に対応。3－③・④は双方に対応）

例えば、以下のような捉え方をしていただくと、新たなカイゼン提案や骨太の論点提案につながるのではないか。

- 未来世代法（ウェールズ）は、意思決定ステージで将来世代の考慮の仕組みの観点から2－①に関連。
- CFLRP（協働森林景観復元プログラム）は、計画策定プロセスで多様な主体の参画を必須としている例で、2－①に関連。
- Farm Sustainability Tool は、社会実験の観点から1－③、デジタル化による効率化の観点から3－②に関連。
- 山古志住民会議がNFT保有者に「デジタル村民」として、NFTの販売益の一部の用途決定権限を与えている事例は、多様な主体の参画の観点から、2－②・③、デジタル化の観点から、3－③に関連。
- 綾町のAYASCOPEや下川町の住民からのデータ提供へのポイント付与は、デジタル化を通じた新たな参画スタイルの観点から、3－③に関連。